



カーブ佐々岡新監督を歓迎!

No.1

広島東洋カーブ佐々岡新監督歓迎セレモニー・12/5

広島東洋カーブの佐々岡真司新監督と松田元オーナーが庄原市を訪問し、市役所本庁舎1階市民ホールで「佐々岡新監督歓迎セレモニー」が開催され、庄原市カーブ応援隊や庄原子どもミュージカルのメンバーなどが佐々岡監督を歓迎しました。

佐々岡監督は「今シーズンは悔しい思いをしたが、新生カーブになった来シーズンはV奪回・日本一を目指して戦っていく」と力強くあいさつし、会場は大きな拍手に包まれました。

来場者は「昔からのファンなので期待している。来年こそは頑張してほしい」「監督の仕事は難しいと思うので、応援していきたい」と話していました。



▲多くの人が佐々岡監督を歓迎した



▲来シーズンの奮闘を誓う佐々岡監督



▲庄原市カーブ応援隊から比婆牛の贈呈

よりよい救急活動のために

高規格救急自動車の寄贈・11/29

No.3

庄原消防署西城出張所で「高規格救急自動車受納式」が行われました。今回、地域の防災力強化や救急医療体制の整備を目的に、一般財団法人 日本損害保険協会から備北地区消防組合へ寄贈されました。

この車両は救急救命士が救急救命処置に必要な空間を確保した上で、各資器材を効率的に積載できるように格納庫が配置されています。この車両が寄贈されたことにより、今後、隊員の活動環境が大幅に向上することとなります。

庄原消防署西城出張所の林誠治所長は「素晴らしい車両をいただいた。職員一同自己研さんを重ね、一人でも多くの方の助けとなるように救急活動を行いたい」と話しました。



▲受納式の様子

第一歩を踏み出すヒントに

「てんとうむしの会」定例会・11/19

No.2

総領保健福祉センターで、総領ひきこもり支援者の会「てんとうむしの会」が開催され、一昨年から制作していた絵本「トンネルの出口～掘るのはだれ?～」が完成しました。

てんとうむしの会では、ひきこもりの当事者の家族や有資格者などが、情報交換や研修を行っています。今回、当事者に同じような体験をしている人の話を知ってもらうため、ひきこもりの実体験をもとにした絵本が制作されました。会員は、「この絵本が、ひきこもりの状態から抜け出したい人や、自分の生き方について悩んでいる人が、第一歩を踏み出すためのヒントになることを願っている」と話しました。



▲完成した絵本を確認する会員



たすきをつなぎ師走の庄原を力走

第68回庄原市スター式駅伝大会・12/1

No.7

庄原に冬の訪れを告げる、恒例の「第68回庄原市スター式駅伝大会」が、上野総合公園陸上競技場を発着点に開催されました。

今回は、中学、高校、職域、一般など、7部門に61チーム366人が出場し、6区間、男子16.0キロメートル、女子15.6キロメートルで健脚を競いました。

開会式では、西城中学校の山本望史さんが、力強く選手宣誓を行いました。

当日は天候にも恵まれ、区間新記録が出る白熱のレースが展開されました。たすきをかけたランナーは、沿道からの多くの声援に背中を押されながら1本のたすきをつなぎ続け、師走の庄原路を力走しました。



▲白熱のレース



▲師走の庄原路へ飛び出していくランナー



▲一斉にスタートを切った

地域を照らすイルミネーション

くしろみやほらイルミネーション・12/1-1/4

No.9

12月1日から1月4日までの約1カ月間、東城町久代宮原地区の国道182号沿いで、イルミネーションが点灯されました。

このイルミネーションは、1996年から始まり、毎年、地域住民が手作業で製作しています。年々規模が大きくなり、今回は10万個以上のLED電球で飾りつけました。期間中はクリスマスソングをBGMに、クリスマスツリーや雪だるま、キャラクターなどが宮原地区を照らしました。

12月14日にはイルミネーションの点灯に合わせ、約200発の花火が打ち上げられました。久代東振興会館では、うどんやそば、おむすびなどの販売もあり、多くの来場者でにぎわいました。



▲光に包まれるメイン会場

「いいいろ塗装の日」に奉仕活動

日本塗装工業会広島県支部が奉仕活動・11/16

No.8

11月16日を“いいいろ”と読ませる語呂合わせから、「いいいろ塗装の日」として、日本塗装工業会広島県支部北部地区による奉仕活動が行われました。

この活動は、広島県支部に加入している庄原市内の塗装業者が、庄原市の公共施設などをボランティアで塗装しているもので、今回で14回目となります。これまで、保育所の建物をはじめ、公園の遊具やベンチなどさまざまな施設を塗り直しました。

今回は上野総合公園陸上競技場の芝生広場ステージの塗り替えが行われました。

奉仕活動により綺麗な色に蘇った芝生広場ステージをぜひご覧ください。



▲ステージの塗り替え作業を行う塗装業者職員

雪合戦シーズン到来

高野杯ジュニア招待雪合戦大会・12/14

No.4

高野小学校体育館で、市スポーツ少年団高野支部主催の「第17回高野杯ジュニア招待雪合戦(屋内)大会」が開催されました。広島市、島根県、鳥取県からも参加があり、全7チームが熱戦を展開しました。

当日の高野地域は、最低気温-4℃と冷え込みましたが、審判のホイッスルで試合が始まると、体育館には選手たちの掛け声や、投げるボールが当たる音、応援の歓声が響き、子どもたちは一生懸命に戦いました。

本年もこの大会を皮切りに、広島県雪合戦大会(2/1-2)、全国大会へと続く雪合戦のシーズンが始まりました。



▲開会式の様子



▲開始の合図でダッシュ



▲少年野球チームも参加

のろしでつなぐ 地域をつなぐ

第12回「狼煙」再現プロジェクト・11/23

No.6

庄原市のろしプロジェクト実行委員会による「狼煙」再現プロジェクトが行われ10の自治振興区が参加しました。

このプロジェクトは、自治振興区がのろしのリリースを行うことで、「人と人、地域と地域の絆づくり」を探求するとともに、「歴史を学び、地域を見直す」ことを目的に、12年前から開催しています。

当日は、庄原市役所前で伝令飛脚の出発式が行われた後、口和自治振興区を皮切りに、山内自治振興区までのろしがつながっていきました。

のろしにあわせ各自治振興区ではイベントが開催され、プロジェクトを盛り上げました。



▲プロジェクトに参加した各自治振興区の皆さん

運動の秋！！

第39回口和走ろう会・駅伝大会・11/23

No.5

庄原市体育協会口和支部が主催する「口和走ろう会・駅伝大会」が市役所口和支所を拠点に開催され、多くの参加者が健脚を競いました。

走ろう会では、子どもたちが2キロメートルのコースを元気いっぱい走り、駅伝大会では、中学生以上の参加者が6区間、男子15.8キロメートル、女子14.6キロメートルでタイムを競いました。駅伝を走った参加者は、「いいタイムが出てとても嬉しい」「普段運動をしていないのでしんどい」と話していました。

会場にはうどんやハンバーガーのバザーもあり、参加者は完走後に食事を楽しみました。主催者は、「来年は第40回の記念大会。さらに多くの参加者でにぎわう大会にしたい」と意気込みを語りました。



▲一斉にスタートする子どもたち



子どもも大人も夢中に

男女共同参画ファミリング講座・12/8

No.15

庄原市民会館で「ファミリング講座」が開催されました。ファミリング講座は男性の育児参画を後押しすることを目的に毎年開催されています。

当日は木育（木と触れ合い、学び、つながる取り組み）をテーマに、参加者は広島県産の木材で作られた「WOOD DADDY」を使って家族で自由な創作を楽しみました。また、今回は「男女共同参画しょうばらフェスタ2019」「庄原空市」と同時開催され、お父さんが講座に参加している間、お母さんは買い物などを楽しみました。

参加者は「ママに1人の時間をつくることができよかった」「気付けば子どもより夢中になってしまった」と話しました。



▲WOOD DADDYを楽しむ子どもたち

みんなでダダダダ！！！！

ドラミング・ハイ・11/10

No.17

東城文化ホールで、宝くじ文化公演「ドラミング・ハイ！」が開催されました。

「ドラミング・ハイ！」は観客の一人一人が手作りのダンボールドラムを持ち、演者3人のリードに合わせてリズムを刻む、体験・参加型のエンターテインメントです。当日は小さな子どもから高齢者まで、無我夢中でドラムを叩き、演奏を楽しみました。

その他にもドラムやスティールパンのソロ演奏が行われ、演者は華やかな舞台を演出しました。さらに、庄原の不老仙太鼓もゲスト出演し、太鼓とドラム、スティールパンの共演でにぎやかな演奏会となりました。

来場者は「とても貴重な体験だった。こんなに楽しい演奏会は初めてだった」と満足そうに話しました。



▲リズムに合わせてダンダンダン！

小鳥が入るように願いを込めて

庄原ロータリークラブによる社会奉仕活動・11/26

No.14

庄原ロータリークラブが社会奉仕活動の一環として、庄原幼稚園の園児と一緒に中央児童公園に鳥の巣箱を設置しました。

まず、庄原ロータリークラブ会員が園児に巣箱の作り方を説明しました。その後、園児は2人1組になって巣箱を作り始めました。園児は初めての作業に苦戦しながらも、巣箱作りを楽しんでいました。

完成した巣箱に、それぞれ名前を書き、小鳥が入るように願いを込めて、他の動物に狙われないよう、木の高い場所に設置しました。

園児が作った巣箱に小鳥が入っているか、近くを通った際には観察してみてください。



▲作業をする庄原ロータリークラブ会員と庄原幼稚園児

移住・定住の参考に

「里山暮らし体験」in口和・11/30

No.16

里山での暮らしを体験できる「里山暮らし体験」in口和が、「庄原暮らしお試し体験施設 くちわの家」で開催され、市内外から41人が参加しました。

このイベントは、移住・定住希望者に、実際の暮らしの参考にしてもらうために、口和自治振興区の主催で開催されました。

当日は口和そばの会の指導によるそば打ち体験や、もみ殻を燃料に使う釜「すくもくど」で炊いた新米のおにぎり作り、餅つき体験などが行われ、参加者は、里山の暮らし体験を満喫しました。

今回の体験で「くちわの家」のPRや、参加者、移住経験者および地域住民の交流が図られる一日となりました。



▲タマネギの苗とニンニクを植える体験なども行われた

自分だけのリース作り

クロモジの枝でリース作り・12/19

No.11

比婆いざなみ街道沿線にある比婆山のプナ林に生えているクロモジは比和町内で昔から利用されています。過去ではオイルを抽出し、石鹸の香料や香水の原料として出荷され、現在ではポプリやお茶作りなど、地域資源として活用されています。

今回、比和上地域サロンで、クロモジの枝を使ったリース作りが行われました。

リース作りには、曲げたり編んだりしやすいように、水に浸けて柔らかくした枝を使用します。参加者は地域マネージャーの垣内給理さんの指導を受けながら、好きな花や木の実で飾りつけ、クロモジの香りを堪能しながら、自分だけのリース作りを楽しんでいました。



▲リース作りを楽しむ参加者

感謝を込めた植樹作業

庄原さくらフェスティバル植樹セレモニー・11/24

No.13

上野池弁天島で「第4回庄原さくらフェスティバル植樹セレモニー」が行われました。

植樹された桜はソメイヨシノで、広島東洋カープから2本、庄原さくらフェスティバル実行委員会から1本の、計3本が市へ寄付されたものです。

植樹セレモニーには広島東洋カープから正髄優弥選手、島内颯太郎選手、小園海斗選手が参加しました。

選手たちは、庄原さくらフェスティバル実行委員会と一緒に、普段から応援してくれている庄原市民への感謝の気持ちを込めて丁寧に作業をしていました。



▲丁寧に植樹作業をする選手たち

秋の庄原を満喫

芸備線全線再開記念ツアーを実施・10/26-12/8

No.10

庄原市観光協会はJR芸備線的全線復旧を記念して、「庄原周遊ツアー」を実施しました。

このツアーには10月26日から12月8日までの土曜日、日曜日、祝日に期間限定で運行した「快速庄原ライナー」が利用され、秋の帝釈峡やお通り、備後落合駅、東城の街並みを周遊する3つのコースで、延べ252人の観光客が参加しました。

参加者は「芸備線で庄原まで行き、そのあと各観光スポットを巡るのは、のんびりでできて楽しい」と列車に揺られる穏やかな旅を満喫していました。



▲備後落合駅を見学する参加者

防災の備えに

防災資機材の引き渡し式・12/13

No.12

平成30年7月豪雨の後、東城町商工会へ寄せられた災害義援金をもとに、防災資機材が東城町内の各自治振興区へ贈られることとなり、田森自治振興センターで、東城町商工会から東城町自治振興区連絡協議会への引き渡し式が行われました。

贈られた防災資機材は、発電機や投光機、コードリール、冷蔵庫などです。

今後、災害時に各自治振興区内の避難所で利用され、避難所環境の向上や、避難者の不安解消に活用されます。

なお、今回の防災資機材のほか、義援金をもとに東城消防署へ資機材搬送車や、町内の各学校・保育所などへストーブ・テレビが寄贈されています。



▲引き渡し式の様子